

腎臓病学から見た重症化予防プログラム開発と評価

研究分担者 和田 隆志

金沢大学大学院 腎臓内科学 教授

研究要旨

糖尿病性腎症の発症・進展を抑制するためにも、地域の特性をいかした医療連携、保健指導など関連の多職種が集うチーム医療が重要である。糖尿病性重症化予防プログラムの遂行のうえで、重要な骨格のひとつとなる糖尿病性腎症の地域の課題の状況把握、各市町村の事業実施状況の把握、取り組み状況の共有、対応する対策の立案準備などを順次進めた。策定された糖尿病性重症化予防プログラムを通じて、現在までに糖尿病性腎症に関する地域医療連携、チーム医療のデータが蓄積しつつある。急速に進む超高齢社会を背景にした糖尿病性腎症の病態のさらなる解明、治療法の確立とともに、保健指導、地域医療連携、チーム医療の充実から一層の予後の改善が期待される。

A. 研究目的

本年度に都道府県レベルで県庁等が県医師会等の医療機関団体と協力して糖尿病性腎症重症化プログラムが策定された。その実施にあたり、各地域の特性は重要な要素となる。地域における課題の分析、各地域での医師会や糖尿病対策推進会議等との取り組み状況の共有、さらに事業実施状況の把握を行う。

B. 研究方法

糖尿病性腎症重症化予防プログラムの遂行にあたり、これまでの糖尿病性腎症の保健指導、地域での取り組み状況などエビデンスを収集する。本事業の推進するなか、実施状況などを調査して、エビデンスを集積し、かつ共有することで今後の展開に資する対策を構築する。

(倫理面への配慮)

本研究において、特に倫理面への配慮は生じない。

C. 研究結果

地域での医師会や糖尿病対策推進会議等との取り組み内容が示された。ことに地域により、都道府県医師会や糖尿病対策推進会、自治体との連携状況も重要であることが示された。くわえて、議糖尿病性腎症対策に特色ならびに連携を進めるうえでの独自の発展性や課題があることを共有した。

D. 考察

本プログラムの実施が進む中、随時取り組み状況を更新する必要がある。また、推進する過程で生じる新たな課題や発展性も把握、共有する必要がある。引き続き厚生労働省、日本糖尿病対策推進会議、各自治体、医師会などの密接な連携のもと、本プログラムを基盤にした重症化予防の取り組みが必要である。

E. 結論

糖尿病性腎症の重症化予防には、地域などの特性もふまえることが重要である。プログラム推進において、重症化リスクの高い医療

機関未受診者などの受診勧奨や保健指導を継続して必要である。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Furuichi K, Yuzawa Y, Shimizu M, Hara A, Toyama T, Kitamura H, Suzuki Y, Sato H, Uesugi N, Ubara Y, Mise K, Hisano S, Ueda Y, Nishi S, Yokoyama H, Nishino T, Kohagura K, Ogawa D, Shibagaki Y, Kimura K, Haneda M, Makino H, Matsuo S, Wada T, Research Group of Diabetic Nephropathy and Nephrosclerosis, Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan and Japan Agency for Medical Research and Development. Nationwide Multicenter Kidney Biopsy Study of Japanese Patients with Type 2 Diabetes. Nephrol Dial Transplant, in press
- 2) 和田隆志: 糖尿病性腎症の臨床, 日本内科学会雑誌 105(3):482-487, 2016
- 3) 和田隆志: 糖尿病性腎症: 最近の進歩, 日本内科学会雑誌 105(9):1870-1876, 2016

2. 学会発表

- 1) 和田隆志: 腎臓病対策と地域医療連携, 平成 28 年度第 5 回大宮医師会医学講座 2016 年 7 月 15 日
- 2) 和田隆志: CKD 対策等の最新知見と保健指導, 平成 28 年度特定健診・特定保健指導従事者研修会(石川県庁) 2016 年 8 月 7 日

H. 知的所有権の出願・取得状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし